

多様な地域の維持・活性化の意義

(地域の状況)

- ・人口減少、少子・高齢化、財政制約の強まり、産業構造の変化等を背景として、地方中小都市や中山間地域等においては、就業機会や社会的サービスの継続的な提供の確保等が厳しい状況にさらされている。
- ・これらの地域は、安全・安心な国土の形成、文化の多様性維持、美しい景観の継承・保全、環境との共生、海洋を含む領域等の保全・管理、農林水産物の生産など、大都市では果たすことのできない様々な役割を担っていく必要があるが、これらの機能を果たすことが困難になりつつある。
- ・国土を支えてきた地域が、今後求められる役割を適切に果たし、その地域に住まう人々が生きがいを持って働き、豊かに生活していけるためには、各地域の将来的な持続が確保され、それぞれの独自の魅力を活かした成熟社会にふさわしい多様な地域づくりが行われる必要がある。

(個人の「満足度」の向上へのモノサシのシフト)

- ・工業社会下においてモノの充足、所得の向上、インフラ整備が相当程度実現され、我が国社会は知識社会・成熟社会へと変化を遂げている。
- ・国民の価値観やライフスタイルはますます多様化しており、地域を測るモノサシも、所得などの経済的側面は相対化し、趣味や社会参加など潜在能力の発揮を通じた自己実現、生き甲斐の実感、或いは誇りと愛着の持てる地域社会と居住空間といった、総合的なQOL(クオリティ・オブ・ライフ)の高さや、個人の「満足度」(充足感)の高さへとシフトしていく。
- ・このため、政策目的も個人の「満足度」の向上を重視し、企業への就労、NPO活動やボランティア、コミュニティ活動への参加など、社会参加度や社会とのつながり(絆、縁)の強さを示す指標を重視していく。

(個人の満足を実現する場としての多様な地域)

- ・個人の側からみれば、「満足度」に対する評価軸の多様化に対応し、個々の人にとって「満足度」の高い地域を選択できるために、それぞれに固有の文化・伝統、自然環境・居住環境等を有する特色ある地域が、国土の上に多様に展開されていることが必要。
- ・個人が、その能力を高め、創造力を発揮する上で、異質なものとの接触や異質な人との交流が重要。国土の上に多様な地域が存在することで、異質なもの、人との出会いの機会が高まり、個人の可能性が増大する。

- ・ 中小都市や農山漁村等の豊かな自然に恵まれた地域の生活・生産活動と、利便性と機能性に優れた都市の生活・産業活動とは、互いに対極にあるものとして、双方の住民にとって必要不可欠なものとなり、特に、風土性豊かな特色ある地域は、その価値を相対的に高めていく。

(地域間の新たな互惠関係へのコンセンサス)

- ・ 国土構造の側からみれば、都市、地方を通じた社会経済・国民生活は、各地域が、それぞれに特色のある人の育成、知と財の生産、国土保全、資源供給、自然環境、海洋を含む領域等の保全・管理機能等の様々な機能を各々担いつつ、相互依存的に補完、連携することで支えられている。
- ・ このような各地域が果たしている国土全体への貢献、地域間の共生とも言うべき考え方についての国民的コンセンサスを形成する。都市と地方がそれぞれの特性を活かしながら、ないところを相互に評価し、補い合って重層的に国土を形成するという地域間の互惠関係を、国土構造的背景の変化を踏まえて再構築し、地域間の対等な協力関係を確立する。

(自立と連携による持続可能な地域の創造)

- ・ 地域の担い手（個人、NPO、企業、自治体等）と他地域の担い手との間の多様なつながりにより地域間の対等な協力関係に基づく連携と交流を推進し、個々の地域の創造性を高めていく。このようにしてつながった多様な個々の地域相互が文化、経済、社会等様々な側面から重層的に連携した奥行き深い圏域を形成することにより、持続可能で自立的な地域を創造する。
- ・ 地域・広域・全国など様々なレベルで、自立的な地域間の重層的な連携関係の構築を推進し、人・モノ・資金・知恵・情報の双方向的な循環を形成する。
- ・ 都市より早く人口減少に直面した、大きな都市的集積から離れた中小都市や農産漁村等の豊かな自然に恵まれた地域は、国土のフロンティアとして人口減少社会に対応した社会システムの構築に挑戦する。